

## 奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練の 実施について

奈良県 奈良市消防局／奈良市消防団

### 1 はじめに

奈良市は2月9日、奈良市消防団、DMAT（ディーマット：災害派遣医療チーム）、DPAT（ディーパット：災害派遣精神医療チーム）合同訓練を奈良ロイヤルホテル（奈良市法華寺町）で実施しました。

この訓練は、奈良市における局所災害（大地震）を想定し、消防団による被災者の避難誘導、避難所での傷病者や精神科医療を必要とする被災者への初動対応処置ができる体制を確立することを目的に実施しました。

これまで、他の地方公共団体でも同一の総合防災訓練等に消防団、DMAT及びDPATが参加し、それぞれ個別に訓練活動する例はありましたが、今回の訓練は、実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う消防団が、医療の専門チームであるDMAT、DPATとの連携訓練を実施することにより、地域防災力の強化、災害時における、よりスムーズな救援・救護体制の構築を図ることが期待されます。

### 2 訓練実施の経緯

奈良市では、平成25年12月13日に公布された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」により、消防団を中核とした地域防災力の強化に取り組んでいるところです。



消防団員による市民・観光客の避難誘導訓練

その取組の一つとして、平成26年7月には消防団員を対象にWHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド（PFA）」の研修を受講し、専門家以外でもできる心理的応急処置を習得しました。災害時には、それぞれの機関が単独では機能することが難しく、消防関係機関、医療関係、行政等が連携を強化することが重要です。そこで、平時に「顔の見える関係づくり」をしていることが必要と考え、奈良市では今回の「奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練」を開催することを決めました。

### 3 被災想定および参加者

今回の合同訓練では、「平成27年2月9日（月）午後3時10分、奈良盆地東縁断層帯を震源とする内陸型地震が発生、地震規模はマグニチュード7.0で震源の深さは約10km、奈良市内で震度6強を観測、甚大な被害が発生した」との想定で実施しました。

合同訓練では奈良ロイヤルホテルを全館貸し切り、災害対策本部、避難所（東大寺境内と想定・エリアを4分割）、さらに被災住宅等を設置し、全館停電状態で訓練を実施しました。

この合同訓練には、奈良市消防団、奈良市消防局をはじめ、災害時こころの情報支援センター、消防団員等公務災害等共済基金、DMAT（市立奈良病院）、日赤救



医療本部で避難所内の被災者の情報を共有



PFAを受講した消防団員とDPATとの連携



不安を抱える外国人観光客に対応する消防団員

護班、DPAT 9自治体、奈良県精神保健福祉センター、奈良市医師会、奈良市保健所など、計427人が積極的に参加、さらに総務省消防庁、厚生労働省、他市消防団等の消防防災関係者が訓練を視察しました。

### 訓練1：避難誘導訓練（2月9日（月）設定）

※発災後、消防団詰所に集合した消防団員は、副団長の指示のもと住宅地（住民）、東大寺（観光客）の2か所へ避難誘導に向かい、避難所へ被災者を誘導する。

訓練では、災害対策本部を設置し、消防団は住居や観光地等（奈良ロイヤルホテル客室を被災現場と仮想）から住民と観光客の避難誘導を実施しました。

#### 〔設定：住宅地（3階・居室）被災者10名〕

- ・寝たきり高齢者（1名）担架搬送
- ・要介護高齢者（1名）
- ・歩行可能（8名）うち6名のみ誘導

※2名の高齢者夫婦を誘導できず。夫に認知症があり避難を拒否された。

#### 〔設定：観光地東大寺（2階・ホワイエ）被災者10名〕

- ・負傷者（1名）担架搬送
- ・要介護高齢者（1名）車いす搬送
- ・歩行可能（8名）誘導

### 訓練2：避難所対応訓練（2月10日（火）設定）

※発災翌日（18時・発災後1日半経過の避難所を想定）、避難所には被災者110名と消防団員30名がいる。すでに奈良市は災害対策本部を設置。避難所責任者より災害対策本部への連絡も済んでいる。避難所には負傷者がおり、市保健所職員3名が避難所へ到着したが、医療チームは到着していない。避難所責任者より消防

団へ「他に支援の必要な方がいるか確認をし報告をしてほしい」との依頼がある。

訓練では、避難誘導を終えた消防団は、奈良市自主防災防犯協議会と避難所（奈良ロイヤルホテル宴会場を仮想）の対応にあたりました。

その後、消防団は被災者に対して心理的応急処置（PFA）を開始し、要援護者については、避難所責任者、保健師らへ報告しました。負傷者の救護に関してはDMAT、日赤救護班、救急隊と連携し、搬送協力を実施しました。さらに消防団はDPATと連携し、精神症状を呈する被災者の対応を行いました。

また、訓練では、奈良市消防団長等による災害対策本部及び避難所本部を設置する訓練も同時に行いました。

終了後には、参加者全員による「ふりかえり」を実施し、訓練で気付いた課題について各団体から報告があり、今後の訓練で再度検証していくこととなりました。

## 4 おわりに

訓練の目的でもありました、“災害時における連携を目標として消防関係者と医療関係者との顔の見える関係をつくる”という所期の目的は、多数の関係機関のご参加を得る事ができ、達成できたと、感じています。引き続き、今回の訓練で得た課題、問題点を徹底検証し、各関係機関と更なる連携強化及び訓練を実施し、住民や当市を訪れる観光客の皆様が安心できるよう全力で取り組んでまいります。

最後に、合同訓練実施にあたり、国立精神・神経医療研究センター災害時こころの情報支援センター 渡路子室長を始めスタッフの皆様には、ご尽力を賜りましたこと、紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。